

丹波交通安全協会が ランドセルカバーを寄附



ランドセルカバーを渡す丹波交通安全協会会長の石川憲幸さん（写真右）と片山教育長

3月8日、慣れない通学路での交通事故から新1年生を守るために、丹波交通安全協会から市内全新生 468 人分のランドセルカバーが寄附されました。

ランドセルカバーを受け取った片山教育長は「このカバーは目立つ色なので、運転中のドライバーからも見やすくなる。児童が安全に登下校するために使わせていただく」と答えました。

「患者に寄り添う」決意を胸に 看護専門学校で卒業式を挙行

3月4日、丹波市立看護専門学校で卒業式が行われ、39人の学生がそれぞれの道に進みを進めました。3年課程のほとんどが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、あらゆる行動が制限される環境のなか、医療現場や学内での実習に取り組み、全課程を終えてこの日を迎えました。

卒業生代表の今次龍世さんは「患者に寄り添い、人に対する思いを大切にできる看護師を志します」と決意を述べました。



「卒業のことば」を述べる卒業生代表の今次さん（写真右）

動きをつけたひな人形がお出迎え 「丹波佐治福よせ雛」開催



カメラを構えたひな人形も展示

家庭で飾ることがなくなったひな人形を集め、展示する「福よせ雛」が27日まで青垣町佐治地内の4つの古民家で開催されています。展示されている人形は乗馬ならぬ、鹿に乗った男性の人形など、動きがあるのが特徴です。

参加者の一人は「カメラを構えたり、パラグライダーを楽しむ人形などもあり、楽しめました。推しのひな人形を見つけるのもおすすめです。」と話しました。

平成4年から5年の発掘調査で出土 梶原遺跡の犁が県指定文化財に

2月17日、市島地域に所在する梶原遺跡で、見つかった犁2組が、県の指定文化財となりました。見つかった犁は長さ150cm、高さ90cmほどで、牛馬に曳かせて土を耕す道具として7世紀中期から後期にかけて使われました。

ほぼ全体が残っている状態で見つかったものとしては日本唯一で、「日本の農耕史を考えるうえでも大変貴重」という点が評価されました。



市島民俗資料館に展示されている梶原遺跡の犁

移住や起業など相互に協力
地方創生包括地域連携協定を締結



オンライン画面上で協定書を掲げる土肥理事長（写真左）

2月14日、兵庫県信用組合と地域産業の活性化や起業、企業誘致などに向け、相互に協力をする「地方創生包括地域連携協定」をオンラインで締結しました。

土肥貴弘理事長は「丹波市は若い世代の移住が増えている。移住者や新規事業を志している人への支援を通じ、住みたいと思えるまちづくりの実現に向けて協力したい」と話しました。

丹波竜のちーたんをあしらった
路線バスを運行会社に貸与

2月25日、市内の路線バスを充実させるため、昨年に引き続き市がバスを購入して運行业者の神姫グリーンバスに無償貸与する中型ノンステップバスの引渡式が行われました。デザインが少し違う2台目のバスは、3月上旬から主に佐治一柏原駅の路線で使用されます。

神姫グリーンバスの本間和典社長は「乗客のみなさんに喜んでもらえるようサービス向上に努めたい」と話しました。



貸与されたバスと本間社長（写真左）

農の学校 通信
【感謝祭 編】

農の学校では卒業前に、実習や学校の運営でお世話になった講師や農家さん、地域みなさんに感謝の気持ちを込めて、受講生が育てた野菜を届けています。

今年度は新たに、出荷規格に合わなかった野菜を有効に活用するため、加工品にも挑戦し、完成品を届けました。

受講生代表として品物を手渡した嶺尾洋人さんは「将来は子どもたちに農業を通じた経験ができる場を、1つでも多く提供したい」と意気込んでいました。また、実習の受け入れや多角経営の指導を行った講師の婦木克則さんは「農業の楽しさだけでなく、厳しさについても学んだと思います。学んだことを生かして頑張ってください」と笑顔で話しました。

3期生の受講生は、9名が市内で就農し、それぞれが思い描く「農」への道を進み始めます。



上：野菜を手渡す受講生（左4人）と婦木克則さん（右）
下：受講生が作ったジンジャーシロップ、小豆あん、さつまいもあんと感謝の手紙